

ミャンマー地震救援事業 ERUチームでの活動

報告者:救急部 看護師 藤原 真由
派遣期間:2025年4月23日から6月15日(出国日～帰国日)
2025年4月4日から4月22日(リモート派遣)
派遣先:ミャンマー・ヤンゴン、ザガイン

2025年3月28日にミャンマー・ザガイン地方でマグニチュード7.7の地震が発生しました。私は、日本赤十字社(日赤)が展開するERU(Emergency Response Unit:緊急対応ユニット)チームの看護師として4月24日から6月15日まで現地に派遣され、現地で活動しているミャンマー赤十字社の支援を行いましたので報告します。

ERU活動の概要

関係者との協議



クリニックへの支援



健康教育への支援



当初は、緊急救援対応としてミャンマー赤十字社とともに巡回診療を行う予定で派遣されましたが、外国人チームによる医療活動の許可が得られなかったため、活動初期にミャンマー赤十字社との協議を経て、巡回診療チームの技術支援および医療の質の向上に重点を置く形へと活動の方向性を転換しました。より現地の赤十字社を主体とした能力強化を行う支援となりました。

現地で行った活動は主に、巡回診療チームの診察や看護ケア等への助言、健康教育の資料作成、ミャンマー赤十字社の保健部門や心理社会的支援に携わるスタッフへやボランティアへのキャパシティ向上への支援でした。

巡回診療チームへの支援

創傷処置の確認・助言



医療資機材管理の説明



作成した健康教育資料



ザガイン地域では、医療を必要とする方々に対応できるよう、毎日異なる場所を訪問する巡回診療が実施されています。日赤の医師、看護師、薬剤師は巡回診療チームに帯同し、診察や看護ケア、薬剤管理やクリニック内の患者の動線などについて、チームと協議を重ねながら、より良い方法について一緒に検討しました。この中でも、チーム内で統一したほうが望ましいと考えられたトリアージや創傷処置の方法については、現地看護師が受け入れやすい方法を聞き取りながら整理し、繰り返し使用できるようにラミネート加工した資料を作成しました。

巡回診療で行う健康教育については、糖尿病患者が多く、裸足で生活していることに加え、洗浄に必要な清潔な水の確保が困難であるという背景から、下肢の創傷に対する予防と早期発見が重要であると考えました。そこで、現地看護師が患者への啓発・指導に使用するフットケアに関する患者教育用の資料を作成し、チームに共有しました。

巡回診療チームへの遠隔支援

巡回診療チームとの 定期的なオンライン会議



日赤チームが作成した資料 を用いた健康教育



ヤンゴンにて国際基準に基 づく巡回診療の紹介



その後、ビザ延長の手続きのために、ヤンゴン滞在となったため、ザガインの巡回診療チームへ直接関わることが難しくなりました。そのため、Web会議システムを利用した遠隔支援に移行し、クリニックの状況、相談ごとの確認、送付した資料の活用状況などについて、定期的に情報を共有しながらフォローアップをしました。

フットケアの資料と創傷ケアの資料を用いた健康教育が行われていることや感染症のトリアージが役立ったということがMHCチームより報告されました。

また、ヤンゴンに滞在中の巡回診療スタッフに対して、今後の活動の参考として、日赤ERUの取り組みと国際基準に基づく巡回診療の実践内容を紹介しました。

保健部門や心理社会的支援のキャパシティ向上への支援

MRCSのスタッフへ雨季へ の備えについて講義



巡回診療の場で行う折り紙 による子どもの心のケア



心理社会的支援 研修への協力



遠隔支援と並行して、ヤンゴン滞在中は、ミャンマー赤十字社のキャパシティ向上を視野に入れた活動を行いました。ミャンマーでは、これから雨季を迎えることから、雨季に流行しやすい感染症について日赤医師がミャンマー赤十字社の保健に関わるスタッフへ講義を行いました。

看護師としては、巡回診療では心のケアをはじめとする心身の安定を支える支援のニーズが認められる一方で、心理社会的支援を行う支援団体や専門機関への紹介先が限られており、対応が難しい状況にあると感じました。そのため、巡回診療チーム内でも一定の心理社会的支援の対応ができる体制づくりが必要だと考え、国際赤十字・赤新月社連盟の心理社会的支援コーディネーターと連携し、ミャンマー赤十字社の支援能力強化に取り組みました。

その取り組みの一環として、心理社会的支援研修における講義協力や、巡回診療を行っているザガイン地域に対する研修の企画・立案を行いました。

おわりに

現在、地震による直接的な外傷は見られませんが、地震後の生活や片付け作業に伴う健康被害や、地震以前から継続している慢性疾患への対応、今後の雨季において発生しやすい感染症の予防が求められています。ミャンマー赤十字社と国際赤十字・赤新月社連盟は連携し、地震後の中長期的な支援へと移行し、現在も活動を継続しています。

ミャンマーでは、地震以前から不安定な情勢により、保健医療へのアクセスが困難な方々が多くいらっしゃいました。今回の地震により、そうした人々はさらなる困難に直面しています。支援を必要とする方々に少しでも届くよう、引き続き皆さまのご理解とご支援をいただければ幸いです。